

2025年4月29日 5:00

Netflix、強みは顧客の「粘着性」 広告プランに成果

大和証券 小浦みなみ投資情報部シニアストラテジスト

探Q 米国株 ポートフォリオ 株式 海外



[ロイター](#)

米国株1銘柄を取り上げ、市場関係者に注目点と今後の見通しを聞く。
今回は動画配信大手の[Netflix](#)。

——調整局面に入る米国株式市場の中でも、株価の堅調ぶりが際立ちます。市場の評価はどのような点にあるとみていますか。

「トランプ政権の通商政策で市場の不透明感が増すなか、関税のかからないコンテンツビジネスを手掛けるとあって、投資家の関心が高まっている。世界で3億人超の顧客基盤を持ち、豊富な自社の知的財産（IP）で高い参入障壁を築いている点が『ディフェンシブ株』としての株価堅調につながっている。バリュエーションにそこまでの割高感もない」

「2022年ごろは株価や業績の伸びが踊り場を迎えていたが、広告付きプランの導入や視聴料金の改変、アカウント共有の厳格化などに取り組み、再び成長軌道に乗った。かつて祖業のDVDレンタルから動画ストリーミングへと主力事業を転換し成長につなげたように、既存のやり方にこだわらず柔軟に経営判断できる点に本質的な強みがある。利用者の動画視聴体験を支える高い技術インフラや膨大な視聴データを活用したマーケティングにも力があり、競合との違いが明確だ」



——17日発表の1～3月期決算（売上高は前年同期比13%増の105億4280万ドル、純利益は24%増の28億9035万ドル）で、8四半期連続の増収増益でした。米中貿易戦争で消費者心理が冷え込めばエンターテインメント業界はあおりを受ける、との見方があるなか、会社は4～6月期も増収増益を予想しています。

「1～3月期決算は売上高が事前の市場予想並み、純利益は市場予想超えと、総じて堅実な内容だった。1月に米国などで実施した値上げの増収効果が寄与したようだ。値上げしても解約が大きく増えていないところを見ると、人気シリーズ作品や話題作で固定ファンをつかみ、その顧客基盤の『粘着性』が成長の原動力になっていると再認識できる。また月額料金が安価な広告付きプランの導入が進んでおり、企業などから得る広告収入が

今後も業績を押し上げる、と期待できそうだ。足元では新規契約の半分以上が広告付きプランだという」

「今後は引き続き広告収入の拡大に注目している。加えて、ドル高の一服も業績の追い風になる可能性がある。米国以外での売上高が全体の5割弱を占めるなかで、ここ数年はドル高の進行によりドルベースでの海外売り上げが目減りしてしまっていた」

ネットフリックス 投資のヒント（25日）	
時価総額	4687億ドル
予想P E R（株価収益率）	43.16倍
配当利回り	0.00%
アナリストの平均目標株価	1117.91ドル
52週の安値・高値	542.01～1106.79ドル

——今後の成長を占うポイントはどこにあるでしょうか。

「コンテンツ面でスポーツの配信拡大に注目している。すでにプロレスのワールド・レスリング・エンターテインメント（WWE）や、米プロフットボールNFLなどの試合中継を始めている。米国でのスポーツ配信ビジネスは市場規模が大きく、広告事業との相性も良い。有料会員の裾野拡大にもつながるだろう」



[ネットフリックスは映画のほか、スポーツなど配信コンテンツを拡充している=AP](#)

——25年度から、四半期決算ごとの有料会員数の開示をやめた点はどうとらえていますか。

「会員数の規模だけを追わず、成長と収益性のバランスを重視した経営に軸足を移す意図があるのだろう。経営陣からも『今後はフリーキャッシュフローやARM（会員あたりの売上高）をより重視する』といった旨の発言が出ている。四半期ごとの会員数開示の停止自体は約1年前からアナウンスされていたため、現在までに会社側の意図は十分に市場に浸透しているとみている」

（聞き手は小池颯）



小浦 みなみ（こうら・みなみ） 2011年東京大学卒、同年大和証券に入社。17年より投資情報部にて個人投資家向けにリサーチリポート執筆に従事。公益社団法人日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

記事・写真等を許可なく複製・転載することはできません。

記事の閲覧には日経ヴェリタスの会員登録が必要です。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。